

英語で議論、実践力磨く

鹿嶋・清真学園高生 19カ国30人と



プレゼンの内容について打ち合わせる生徒＝鹿嶋市宮中

英語話者との交流やディスカッションを通じて実践的な語学力を身に付ける「1 day English Camp」が12月16日、鹿嶋市宮中の清真学園高で

行われた。2年生約170人が参加し、社会的課題についての解決策を議論。英語でプレゼンを行い、動画を撮影した。来校したのは日本在住で

インドやフィリピン、シンバブエなど計19カ国出身の30人。生徒たちは英語を使って出身国のイメージについて話し合ったり、文化や伝統について質問したりして、少しずつ相互理解を深めた。

グループごとのディスカッションでは「フードロス」「獣害」「日本の子どもが英語に触れる機会を増やすには」などのテーマを設定。海外視点からの意見も聞きつつ、発表内容や話し方を固めていった。

その後、プレゼンの様子を動画で撮影し上映。お互いに観賞して、感想を述べ合った。

ネットいじめをテーマにプレゼンを行った石崎陸翔さん(17)は「日本と違うダイレクトメッセージが使わ

れることが多いという海外の事例も聞いて、プレゼンの内容に盛り込んだ」と振り返った。畑中瑛翔さん(17)は「日常的に英語で話すことがないので意見を述べるのは難しかったけれど、伝わった時はうれしかった」と話した。

(村田知宏)